

# びやんぼぶれす



お買い物は  
お近くの  
ジャンボ市  
グループで

発行所(株)流通技研  
土・日ジャンボ市大釜店  
〒020-0764 岩手県滝沢市  
大釜土井尻 118-8  
電話番号 019-684-3166  
FAX 番号 019-687-3367  
じゃんまる 津志田店  
〒020-0835 岩手県盛岡市  
津志田南三丁目7番30号  
電話番号 019-637-1928  
FAX 番号 019-637-1930  
Copyright(c)2006,  
Ryuutuugiken CO.,LTD.  
All rights reserved

## 知られざる古のロマンが大釜にはある！

明治三年には、大釜の八幡宮・篠木の田村神社・大沢の熊野神社・鵜飼の駒形神社・滝沢の角掛神社がそれぞれ村社に決定されたのである。岩手山神社は郷社から大正五年十一月に県社に列せられている。村内の神社をさらに詳細に見れば、大釜には八幡宮・落合不動等・諏訪八幡宮・末社山神・庚申堂・稲荷社、篠木には田村神社・山王社・白松蒼前、大沢には熊野神社、稲荷神社、鵜飼には駒形神社・月読社・山祇神祠、滝沢には角掛神社・山神祠・白沢神社・本覚明神・岩手山神社がある。

## 創立不詳「平安時代」の伝説が：

### 二 八幡宮（大釜八幡宮）

祭神は応神天皇（誉田別（ほむたわけ）尊）で、御神体は青銅、丈七寸七分、文雲孔雀の衣に袴をつけ深沓（とう）をはき、剣をさげ、冠を頂き、床机に腰をかけている。台座も青銅で正面五寸五分横三寸五分高九

分、正面に「奥羽南部上岩手郡大釜村八幡大菩薩」と刻み、側面に享保五年（一七二〇年）九月十五日治工有坂宇平次之作とある。外に明眼三右工門外数名が刻まれている。八幡宮は大釜釜口にあつて、面積は五反四畝二十九歩、祭典日は旧八月一日であつたが最近九月一日に変更している。

分、正面に「奥羽南部上岩手郡大釜村八幡大菩薩」と刻み、側面に享保五年（一七二〇年）九月十五日治工有坂宇平次之作とある。外に明眼三右工門外数名が刻まれている。八幡宮は大釜釜口にあつて、面積は五反四畝二十九歩、祭典日は旧八月一日であつたが最近九月一日に変更している。

この八幡を世人ドンツグ八幡といっている。このことについて大笈直治氏は次の四つをあげている。  
沢村亀之助翁曰くドンツグとは博突のことなり、明治の聖代にも彼の社にて博突せしものなれば村人はかく名附けん。  
太田重裔翁曰く、字佐の八幡を深川の八幡というように、甲斐の国の小字名を冠せしものならん。  
本誓寺住駄是祥曰く、ドンツグとは上方の或地方で旦那という事に使う。即ち旦那の八幡様の意たらん。  
最後に一説を附せんか。恐らく蝦夷からの転誰せるものにして、小丘の意に非らずや。

一 八幡宮 一宮  
厨川通大釜村御本社外殿有り来りの通り八幡山の内社内の儀は南より北は山裾限り南に杉サイカチの大朴、西に当つて大松小松。北に朴其所より東に見下す。東より南まで田添小関切南は道切り  
一 諏訪大明神 一宮  
一 末社山神 一宮  
右両社は千ヶ窪御山之内小名高館森と申所に往古より御鎮座にて境の義は南北へ八間東西へ十二間右之内社木の義は御山帳にこれあり候  
以上三社にて二社也（明治三年十二月太政官布達により一社となる。）  
寛政十一年（一七九九年）末四月

く其跡を止めるのであるが、その由緒は左の通り。  
奥州岩手郡大釜村  
本宿兵衛右依願正一位稲荷大明神云々  
神祇官領長上家  
慶応二寅年（一八六六年）四月公文所この稲荷社は明治三年の太政官布達によつて八幡宮境内の小社に遷座する。医学博士土井尻正次氏宅では八幡宮の例祭日に神撰を献じて祭祖をする。  
○落合不動尊  
落合不動尊は往古沼袋穴熊（まみ）沢にあつたが、沢と川とは其の落差が非常にありて落口は懸りて滝となる。その滝を不動の滝と名付ける。しかし洪水の度毎に河岸崩壊し不動尊は川底深く没せんとする危険あるにより八幡宮境内に遷座する。  
○諏訪神社  
元高館森にあつたが現在は細屋にある。八幡宮の北方越前堰の向いの森を入々は八幡館。高館森の森をば省略して高館、または御諏訪さんなど色々に呼んでいる。  
南部家の御領分社堂によると大釜村諏訪八幡が見える。この高館森に諏訪神社があつたが後八幡宮に合福する。  
細屋の掛仏御諏訪さんは青銅で直径約一尺の円板である。  
源 助  
助左工門  
久 蔵  
彦左工門  
仁 蔵  
観音奥州南部上岩手大釜村  
久兵衛表面弥陀  
裏面諏訪大明神 善左工門  
薬師享保五癸子年（一七二〇年）九月十四日三右工門  
万之助  
惣次郎  
久 助  
才三郎  
与左工門  
藤原助五郎  
治工茂平治  
○庚申堂  
日向の西方国道の北側に祠堂の庚申堂がある。・出典滝沢村史、



創立不詳。伝説によれば「康平五年（一〇六二年）源頼義及び其子義家安倍貞任を討伐せる時其武運を祈願し捷（しよう）を奏し、此処に一社を勧請せるものという。本社は又安倍八幡といい、即ち安倍氏討滅報謝のため建設せる意なるべし、其後南部信濃守重信（第三十一世）・寛文十二年（一六七二年）に社殿再修、大膳大夫利幹（もと）（第三十二世）は宝永三十二年（一七〇五年）に大膳大夫利視（み）（第三十三世）は

一族部覚の中に忠直の長男左馬之助直家、次男彦右工衛門直信、参男丹後（細谷の先祖）が含まれていた。細谷は甲斐の国巨摩郡細谷にある。ここから家号名が出たであろう。細谷は「八幡大菩薩」の像を氏神とし、これを祭主し、年々例祭の時だけ御神体を奉還して参拝せしめ、常には自家に安置している。この丹後は人に接する事を甚しく忌み嫌い、やむなく人を引見する際は、離れて火箸を自分の衿（えり）より稍高く衿頭に挿入して接し、少しの隙も見せず、しかも夜中には絶対に面接しなかつたという。細谷は維新前までは一族の者武田を名乗らず武島といつていた。

主 蔵・  
肝 入勘右工門  
御山肝入新助  
外 四名  
斎藤日向少輔（しようゆう）様●南部家の『御領分社堂』には大釜村一 諏訪八幡宮 三尺四面板葺  
右社堂建立年月由緒等不相知  
大釜村  
一 稲荷社 二尺四面板葺  
右は慶安年中（一六四八・五二年）勧請奉り候由申し伝え候篠木斎藤家古交書より拾ひ書すれば、文化十二年（二八・一五年）五月先祖丹宮儀師家斎藤出雲持宮田村大明神社家二御取立仰せ付けられ下し置かれ度く願ひ上げ候処願の通り仰せ付けられ候其節斎藤兵庫と苗字名共に下し置かれ候官職の儀は文化十三年（一八一六年）六月兵庫吉田家より免許頂戴仕り候尤も兵庫儀は天保九年（一八三八年）四月兵太夫と改名仕り候て私まで二代に相成り候間此段申し上げ候以上弘化三年（一八四六年）六月 大釜村八幡宮祠宮 斎藤家門弟 斎藤十之進（篠木大橋） 覚  
一 松之木目通六尺五寸廻 一本  
右は厨川通り大釜村八幡宮境内にて風折木剪取り頂戴仕り神楽殿建立仕り度ぎ旨別当斎藤出雲願に依て下し置かれ候条根に御極印を入れ同人へ相渡し申し候紛敷儀これなき様剪り出させ申さるべく候以上  
嘉永四年（一八五一年）七月 西  
根御山奉行判斎藤出雲殿  
○八幡宮境内之朝鮮五葉松  
大坊直治氏によれば八幡宮神殿前の五葉松は長崎県対馬国の芳長老といえる大僧侶が寛文年中（一六六一・七三年）我が藩に幕府より御預けになったが、其時我が藩主重信公に其種子を献上した。藩ではそれを播種し、御城の周り又は神社等殿様関係の場所に限られて植栽されたが、篠木斎藤神職は命に依り文化年中（二八〇四・一八年）城内の榊山神社に奉納神楽舞を演じた時苗木二本頂戴し、その一本を植える。氏子其由来を知り石柵を建て廻らしたが、先史民族の古墳の上に栽えたのは何かの縁因ではないだろうか。

○稲荷の由緒  
国道四十六号線の南竹鼻に屋敷名を稲荷という処がある。現今は社堂な

○庚申堂  
日向の西方国道の北側に祠堂の庚申堂がある。・出典滝沢村史、



